

都市再生整備計画 事後評価シート
守山市南部地区

平成30年3月

滋賀県守山市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	滋賀県	市町村名	守山市	地区名	守山市南部地区			面積	97ha				
交付期間	平成25年度～平成29年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	2,648百万円	国費率	0.5						
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	地域生活基盤施設(都市再構築戦略事業):浮気団地広場再整備事業、中心拠点誘導施設:図書館(守山市立図書館整備事業)、中心拠点誘導施設:保育園(浮気保育園整備事業)										
		提案事業	なし										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし	事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業	なし		-	-							
	新たに追加した事業	基幹事業	なし		-	-							
		提案事業	なし		-	-							
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	なし									
変更	なし												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
		単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
	指標1	市内の待機児童数	人	95	H25	0	H29	93	×	あり	○	・浮気保育所の整備により定員が増加したことや、浮気団地広場の整備により、保育所機能が強化されことで、待機児童数の減少が見られたが、人口増加等を背景に、市内の待機児童の解消には至らなかったと考えられる。 ・人口増加や制度変更など、外的要因による影響を受けやすい指標設定となったことも未達成に至った反省要因のひとつと考えられる。	
	指標2	公共施設の利用者数	人/年	188,930	H24	204,908	H29	274,948	○	あり	○	・図書館以外の関連事業の実施により、外出しやすい環境が整備されたことで、公共施設の利用者数が増加したと考えられる。 ・事業効果が発現していない平成25年度に目標を達成していることから、目標値の設定が低過ぎたことが反省点のひとつと考えられる。	2019年11月
指標3	図書館の図書貸出者数	人/年	141,201	H24	165,590	H29	計測不能	計測不能	あり	○	(計測不能)	2019年11月	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ			
	その他の数値指標1	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期			
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	・守山市立図書館整備基本計画書(案)に係るパブリックコメント ・図書館整備内容についての「①ワークショップ」「②基本設計報告および講演会」 ・浮気保育園・浮気団地公園整備内容についての保護者・住民ワークショップ			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ・図書館については、開館前に見学会等を予定。 ・浮気保育園・浮気団地公園については、必要に応じ関係者の意見を聞き、適正な維持管理に努める。				
	持続的なまちづくり体制の構築	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

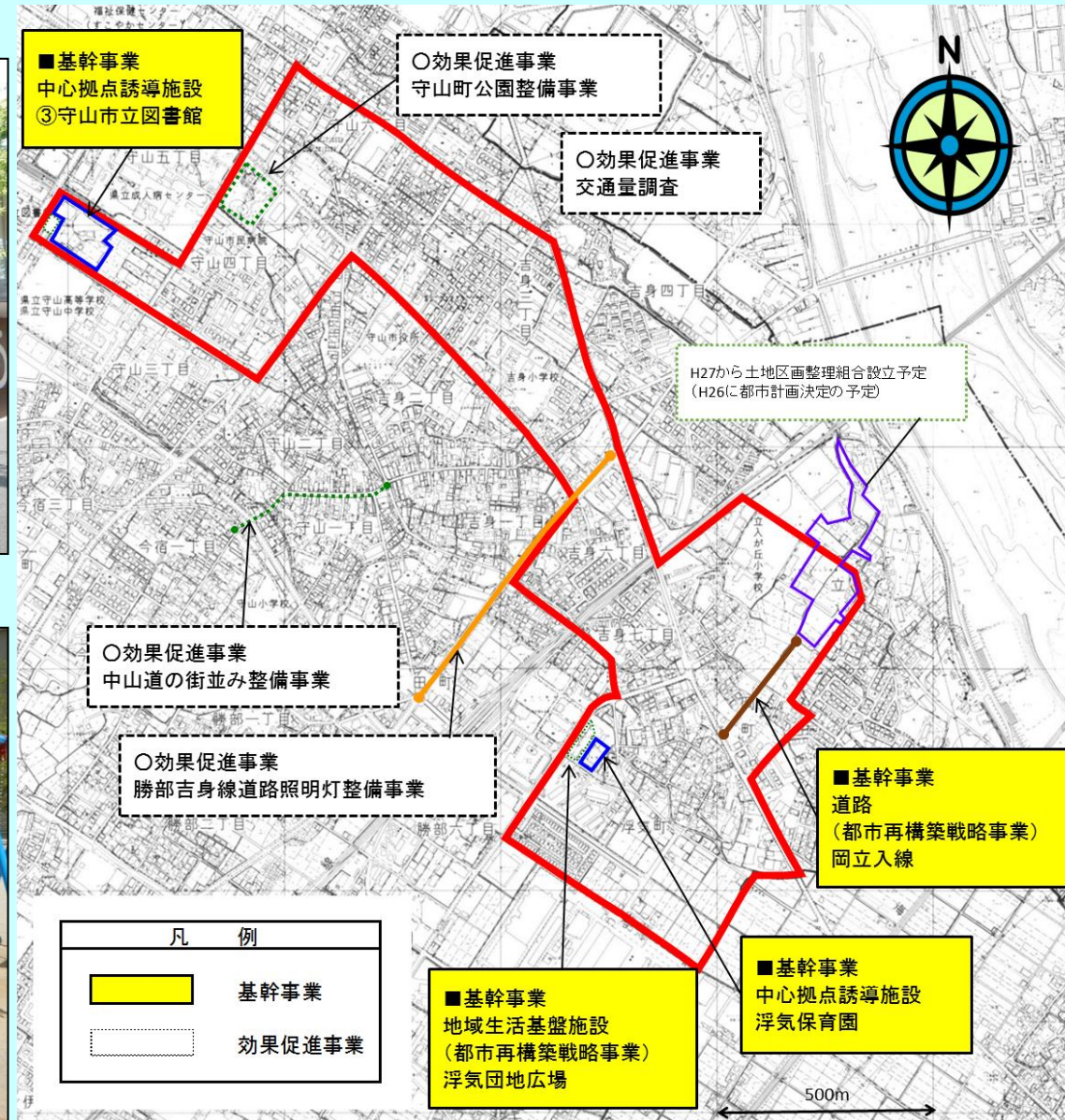
守山市南部地区(滋賀県守山市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	数値	年度	数値	年度	数値	年度
・居住環境の充実と住みやすさを実感できるまちづくり ・多世代が集い、地域コミュニティの絆を深めるまちづくり	市内の待機児童数	人	95	H25	0	H29	93	H29
	公共施設の利用者数	人/年	188,930	H24	204,908	H29	274,948	H29
	図書館の図書貸出者数	人/年	141,201	H24	165,590	H29	計測不能	H29

■基幹事業 浮気保育園整備事業



■基幹事業 浮気団地広場再整備事業



■基幹事業 図書館整備事業(実施中)



■関連事業(効果促進事業) 守山町公園整備事業



■関連事業(効果促進事業) 中山道の街並み整備事業



■関連事業(効果促進事業) 勝部吉身線道路照明灯整備事業



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ◇図書館は整備中(平成29年度完成予定)であり、課題であった規模・機能の充実がなされる見通し。 ◇外出しやすい環境が整備されたことで、公共施設の利用者数が増加するなど、交流人口の増加が図られた。 ◇保育所及び広場化が一体的に整備され、子育て世帯が満足して子供を遊ばせる環境が充実した。 ◇待機児童の解消が未解決の課題となっている。 ◇今後も人口の増加傾向が続くとともに、高齢化がさらに進むと予想されていることから、総合的な観点からより良い居住環境の実現と魅力的なまちづくりの推進に取り組む必要がある。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ◇待機児童の解消に向け、多様な受け皿確保に努める。 ◇多様化する子育て世帯のニーズに対応するために、安全・安心・快適に暮らせる環境づくりに努める。 ◇南部市街地への人の流れを喚起し、さらなる交流人口の増加を図るために、快適な歩行空間と人が集う魅力的なまちづくりに努める。 ◇人口増加に対応したインフラの充実を図るために、引き続き居住環境の充実と住みやすさを実感できるまちづくりに努める。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他(区域面積、事業期間)		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業		当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
事業	事業箇所名	事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	岡立入線	378	L=300m	8	L=300m				
公園									
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	浮気団地広場	30	A=2,030㎡	20	A=2,030㎡	事業費の増額	影響なし	●	
高質空間形成施設									
高次都市施設									
中心拠点誘導施設	守山市立図書館	1,300	A=5,345㎡	2,100	A=5,345㎡	事業費の増額	影響なし		
中心拠点誘導施設	浮気保育園	512	A=2,168㎡	520	A=2,168㎡	事業費の増額	影響なし	●	
生活拠点誘導施設									
既存建造物活用事業									
土地区画整理事業									
市街地再開発事業									
住宅街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業									
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考) 関連事業									
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考	
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画			
都市再生整備計画事業と一体の効果促進事業		守山町公園整備事業	5	4	H26	H26	完成済		
都市再生整備計画事業と一体の効果促進事業		中山道の街並み整備事業	15	6	H26-29	H27-28	継続実施予定		
都市再生整備計画事業と一体の効果促進事業		交通量調査	7	3	H26-29	H26-29	継続実施予定		
都市再生整備計画事業と一体の効果促進事業		勝部吉身線歩道照明灯整備事業	10	10	H25	H25	完成済		

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	モニタリング	事後評価	数値	評価	あり	なし			
指標1	市内の待機児童数	人/年 ・市の統計資料(担当課の集計)より、守山市内の保育所等利用待機児童数を把握。 ※平成27年以降は、保育の必要性の事由が「求職」である場合についても待機児童数に計上。	-	-	95	H25	0	H29	モニタリング			モニタリング			○
									事後評価	確定 ●	93	事後評価 ×			
指標2	公共施設の利用者数	人/年 ・市の統計資料(担当課の集計)より、対象6施設の利用者数を把握。 【対象6施設】 ・駅前総合案内所 ・駅前コミュニティホール ・市民交流センター ・中山道街道文化交流館 ・歴史文化拠点施設 ・守山小学校に併設する都市福祉施設	-	-	188,930	H24	204,908	H29	モニタリング			モニタリング			○
									事後評価	確定 ●	274,948	事後評価 ○			
指標3	図書館の図書貸出者数	人/年 ・市の統計資料(守山市図書館年報)より、図書館の貸出人数を把握。	-	-	141,201	H24	165,590	H29	モニタリング			モニタリング			○
									事後評価	確定 ●	計測不能	事後評価 計測不能			

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	・浮気保育園の整備により、守山市内の待機児童数が一時的に大幅に減少する改善効果が見られたものの、同時期に待機児童数の捉え方に変更があったこと、守山市内の人口・世帯数が増加し続けていることなどの影響により、待機児童数は従前値とほぼ同じ水準である93人/年(確定値)となり、目標値である0人/年を達成することはできなかった。 ・指標1は、待機児童の対象範囲を市内全域としたことで、南部地区における浮気保育園の整備効果が分かりにくくなってしまった。また、人口増加や制度変更など、外的要因による影響を受けやすい指標設定となったことも未達成に至った反省要因のひとつと考えられる。	-
指標2	・対象6施設の平成29年度における利用者数の評価値(見込みの値)の合計は、約274,948人/年となり、目標値である204,908人/年を上回り、目標を達成した。 ・事業効果が発現していない平成25年度以降から継続して目標値を超えていることから、人口増加等による利用者増も増加要因のひとつと推察される。 ・事業効果が発現していない平成25年度に目標を達成していることから、目標値の設定が低過ぎたことが反省点のひとつと考えられる。	-
指標3	・図書館が整備中であるため、評価値は計測不能。	-

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と 評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、 対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		数値(ウ)		本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題 等)
			基準 年度		基準 年度					
その他の 数値指標1							モニタリング			
							事後評価	確定		
その他の 数値指標2							モニタリング			
							事後評価	確定		
その他の 数値指標3							モニタリング			
							事後評価	確定		

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した ----- 予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
守山市立図書館整備基本計画書(案)に係るパブリックコメント	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した ● ----- 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】計1回 【実施時期】平成26年12月15日から平成27年1月9日まで(説明会:平成26年12月17日、12月20日) 【実施結果】図書館整備内容について、住民の意見を聞き、計画に反映したことで、利用者満足度の高い施設を整備した。	
図書館整備内容についての「①ワークショップ」「②基本設計報告および講演会」	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した ● ----- 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】①計1回 ②計1回 【実施時期】①平成28年2月21日 ②平成28年6月26日 【実施結果】図書館整備内容について、住民と合意形成を図ることで、利用者満足度の高い施設を整備した。	開館前に見学会等予定
浮気保育園・浮気団地公園整備内容についての保護者・住民ワークショップ	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した ● ----- 予定したが実施できなかった (理由)	【実施頻度】計2回 【実施時期】平成26年1月11日、15日 【実施結果】新園舎・公園の整備内容について、保護者・住民の意見を聞き合意形成を図ったため、工事施工が円滑に進むと共に、保育園・公園に対する愛着が生まれ利用者満足度の高い施設を整備した。	必要に応じ関係者の意見を聞き、適正な維持管理に努める。

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
	予定どおり実施した ----- 予定はなかったが実施した ----- 予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	道路河川課、保育幼稚園課、図書館、建設管理課、都市計画課	平成29年10月25日	都市計画課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2							
指標名		公共施設の利用者数							
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	道路(都市再構築戦略事業)岡立入線	△	・図書館以外の関連事業の実施により、外出しやすい環境が整備されたことで、公共施設の利用者数が増加したと考えられる。 ・事業効果が発現していない平成25年度に目標を達成していることから、目標値の設定が低過ぎたことが反省点のひとつと考えられる。						
	地域生活基盤施設(都市再構築戦略事業) 浮気団地広場	—							
	中心拠点誘導施設 守山市立図書館	不明							
	中心拠点誘導施設 浮気保育園	—							
提案事業									
関連事業	効果促進事業 交通量調査	○							
	効果促進事業 守山町公園整備事業	○							
	効果促進事業 勝部吉身線道路照明灯整備事業	○							
	効果促進事業 中山道の街並み整備事業	○							

※指標改善への貢献度

- ◎ : 事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- : 事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △ : 事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	・南部市街地への人の流れを喚起し、さらなる交流人口の増加を図るために、快適な歩行空間と人が集う魅力的なまちづくりに努める。				
-------	---	--	--	--	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1			指標3									
指標名		市内の待機児童数			図書館の図書貸出者数									
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	
基幹事業	道路(都市再構築戦略事業)岡立入線	×	・浮気保育所の整備により定員が増加したことや、浮気団地広場の整備により、保育所機能が強化されことで、待機児童数の減少が見られたが、人口増加等を背景に、市内の待機児童の解消には至らなかったと考えられる。 ・人口増加や制度変更など、外的要因による影響を受けやすい指標設定となったことも未達成に至った反省要因のひとつと考えられる。	Ⅱ	(計測不能)	Ⅰ								
	地域生活基盤施設(都市再構築戦略事業) 浮気団地広場	△												
	中心拠点誘導施設 守山市立図書館	-												
	中心拠点誘導施設 浮気保育園	△												
提案事業														
関連事業	効果促進事業 交通量調査	-												
	効果促進事業 守山町公園整備事業	-												
	効果促進事業 勝部吉身線道路照明灯整備事業	△												
	効果促進事業 中山道の街並み整備事業	-												

※目標未達成への影響度

- ××: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×: 事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △: 数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- : 事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ: 内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ: 外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ: 外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	・待機児童の解消に向け、多様な受け皿確保に努める。 ・多様化する子育て世帯のニーズに対応するために、安全・安心・快適に暮らせる環境づくりに努める。	・人口増加に対応したインフラの充実を図るために、引き続き居住環境の充実と住みやすさを実感できるまちづくりに努める。		
------------------	--	---	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内検討会議	道路河川課、保育幼稚園課、図書館、建設管理課、都市計画課	平成29年10月25日	都市計画課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
<ul style="list-style-type: none"> ・近年、図書館ニーズが多様化してきているほか、図書館の蔵書冊数に対して床面積が狭小である。 ・中心市街地の人口増に伴い、待機児童問題の対応は進めているものの、未だ待機児童は解消には至っていない。 ・子育て世代が満足して子供を遊ばせる施設が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇図書館は整備中(平成29年度完成予定)であり、課題であった規模・機能の充実がなされる見通し。 ◇外出しやすい環境が整備されたことで、公共施設の利用者数が増加するなど、交流人口の増加が図られた。 ◇保育所及び広場化が一体的に整備され、子育て世代が満足して子供を遊ばせる環境が充実した。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇待機児童の解消が未解決の課題となっている。 ◇今後も人口の増加傾向が続くとともに、高齢化がさらに進むと予想されていることから、総合的な観点からより良い居住環境の実現と魅力的なまちづくりの推進に取り組む必要がある。 	—

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	より良い居住環境の実現と魅力的なまちづくりの推進	◇多様化する子育て世帯のニーズに対応するために、安全・安心・快適に暮らせる環境づくりに努める。	◇子育て世帯や高齢者世帯など、誰もが安心できる暮らしを支える地域医療の充実
	より良い居住環境の実現と魅力的なまちづくりの推進	◇南部市街地への人の流れを喚起し、さらなる交流人口の増加を図るために、快適な歩行空間と人が集う魅力的なまちづくりに努める。	◇歩行者空間のバリアフリー化や地域の交流を生み出す拠点整備など、快適な歩行空間と人が集う魅力的なまちづくり
	より良い居住環境の実現と魅力的なまちづくりの推進	◇人口増加に対応したインフラの充実を図るために、引き続き居住環境の充実と住みやすさを実感できるまちづくりに努める。	◇宅地化の進展が見込まれるエリアにおける都市基盤の充実など、居住環境の充実と住みやすさを実感できるまちづくり

B欄 改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	待機児童の解消	◇待機児童の解消に向け、多様な受け皿確保に努める。	◇守山市家庭的保育事業(保育ママ)など、多様な受け皿の充実

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

✓	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
✓	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
✓	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
✓	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
✓	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

--

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

- ・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画		
			年度	年度	年度	年度					予定時期	計測方法	その他特記事項
指標1	市内の待機児童数	人/年	95	H25	0	H29	確定 ●	93	×	あり	-	-	-
							見込み			なし			
指標2	公共施設の利用者数	人/年	188,930	H24	204,908	H29	確定 ●	274,948	○	あり	2019年11月1日	図書館完成後の1年間の実績を計測(2018年11月～2019年10月)	-
							見込み ●			なし			
指標3	図書館の図書貸出者数	人/年	141,201	H24	165,590	H29	確定 ●	計測不能	計測不能	あり	2019年11月1日	図書館完成後の1年間の実績を計測(2018年11月～2019年10月)	-
							見込み ●			なし			
その他の数値指標1							確定						
							見込み						
							確定						
							見込み						

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点		同様のケースが生じた場合は、フォローアップを適切に実施することで対応する。
	うまく いかなかった点	図書館の完成が遅れたため、事後評価段階での評価値が「計測不能」となった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	住民参加を積極的に実施し、住民の意見を聞き、計画に反映したことで、利用者満足度の高い施設整備に繋げることができた。	今後も同様に住民参加を積極的に実施する。
	うまく いかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点		
	うまく いかなかった点		
その他	うまくいった点		同様のケースが想定される場合は、事後評価実施前に変更を実施する。
	うまく いかなかった点	今後実施する予定のない効果促進事業について、本来であれば事後評価前の見直しで削除しておくべきであったが、見直しをしていなかったため、事後評価後に見直しを行うこととなった。	

添付様式6－参考記述 今後、交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	守山市ホームページに掲載	平成29年12月14日 ～ 平成29年12月28日	平成29年12月14日 ～ 平成29年12月28日	担当課へ郵便、ファックス、Eメール等で提出	都市計画課
広報掲載・回覧・個別配布	—	—	—		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	・ホームページへのアクセス数は13件、意見書の提出は0件				
-------	------------------------------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	立命館大学 工学部建築都市デザイン学科教授 及川清昭 立命館大学 工学部都市システム工学科教授 小川圭一	平成30年2月15日	都市計画課	守山市社会資本整備総合交付金評価員設置要綱	
その他の委員					

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手続き等にかかる審議	方法書	・適切に実施されたことが確認された。
	成果の評価	・適切に実施されたことが確認された。
	実施過程の評価	・適切に実施されたことが確認された。
	効果発現要因の整理	・定住人口などの定量的な指標が用いられているが、各事業効果との関連が分かりにくい。図書館についても、貸出者数ではなく、来館者数とした方が効果が分かりやすいと思われる。市民アンケートなどで定性的な評価をするのも良いが、定性的データよりも、事業効果がより分かりやすい定量的データを用いることができればさらに良いと思われる。今後の課題としてほしい。 ・待機児童数は、前回と同じ定義での検証ができるとより良い。
	事後評価原案の公表の妥当性	・適切に実施されたことが確認された。
	その他	・特になし。
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると認められた。
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	・待機児童数の解消は、施設の充実より、ソフト面・運営面の取組(人員の確保など)の方が重要である。その辺の工夫を取り入れていくことも今後の課題と考えられる。 ・待機児童数の解消に向けて、市全体を見てどのエリアを拡充すべきかという観点からの分析も今後の課題と考えられる。
	フォローアップ	・特になし。
	その他	・特になし。
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくり方策は妥当であると認められた。
その他	・特になし。	